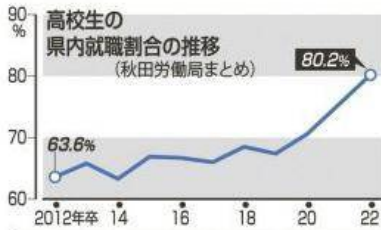


# 県内就職 80.2% 過去最高

今春卒業 6月末 高校生、内定率は100%



秋田労働局は1日、今春卒業した高校生の就職内定状況を発表した。内定者1万7255人のうち、県内就職は1万384人で全体の80.2%を占め、比較可能な1989年以降で最も高い割合となった。就職

秋田労働局は6月末時点で100%を達成した。県内就職割合が過去最高だったことについて、同局は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、就職活動の当初から県内就職を希望する生徒が多かったと分析。県内企業の採用意欲も高く、県や関係機関による県内就職促進への取り組みも奏功したとみる。産業別の県内求人に対する就職者の割合(充足率)は、製造業が47.2%と最も高く、卸売・小売業が30.4%、医療・福祉が25.1%と続いた。最も低かったのは建設業で16.6%だった。建設業の就職者は180人で前年より28人増えたものの、求人数が多い

ため人手不足が解消されていない。

秋田労働局は同日、来春卒業予定の高校生への職業紹介状況も発表した。就職希望者数(5月15日時点)は1643人で、前年同期比2.9%(49人)の減。このうち県内への就職希望割合は78.3%(同0.3%増)で過去最高だった。

県内求人数(6月末時点)は同8.1%(289人)増の38836人。県内求人倍率は2.98倍で過去最高となった。(神谷紗耶加)